

## 2.統合失調症<sup>ハ°</sup>外<sup>ハ°</sup>障害および他の精神病性障害群(B11)

•作成日:2018.6.1

•作成者:谷口 秀樹

中核となる統合失調症の記述は、下記の例外が廃止された以外は、DSM-4 とほぼ変わっていません。ただし、今まで、それぞれ独立した障害として記述されていた、妄想性障害・短期精神病性障害・統合失調症様障害が、統合失調型<sup>ハ°</sup>-サリテ障害を含めて、連続的に変化する障害として統合失調症<sup>ハ°</sup>外<sup>ハ°</sup>と定義されました。

\* DSM-4 の例外記述・シユイタ°-の1級症状 (奇異な妄想、会話や患者の行動を説明する幻聴など) の場合は中核症状が1つでも統合失調症とされた。

\* DSM-4 に記載されていた、共有精神病性障害と失感情障害(Pl<sup>ハ°</sup>サイミア)の記載はありません。

### 【統合失調症<sup>ハ°</sup>外<sup>ハ°</sup>】・上から下に重症化

#### ①.統合失調型(ハ°-サリテ)障害

•統合失調症の中核症状がいずれもはっきりせず、意思疎通が可能。

\* 詳しくは、18.ハ°-サリテ障害群の A 群に記述。

#### ②.妄想性障害

•中核症状のうちで妄想のみが顕著な症状。妄想には奇異な妄想も含まれる

#### ③.短期精神病性障害

•中核症状の1つ以上が確認され、1か月以内に回復。

#### ④.統合失調症様障害

•統合失調症の診断基準を満たすが 6か月以内に診断を満たさなくなる程度に回復。

#### ⑤.統合失調症

•下記の5項目の中核症状(基準A)のうち2つ以上(うち1つ以上が(1)~(3))が1ヶ月以上常時存在し、前駆期、残遺期を含んで6ヶ月以上継続する。

(1).妄想 (2).幻覚

(3).思考の解体、疎通性のない会話

(4).ひどくまとまりのない言動、緊張病性の行動

(5).陰性症状(感情の平板化、無為)

### 【その他の精神病性障害】

#### ⑥.統合失調感情障害

•統合失調症の中核症状と同時に気分<sup>ハ°</sup>リ<sup>ハ°</sup>ト<sup>ハ°</sup>が共存する障害。

#### ⑦.物質・医薬品誘発性精神病性障害

•薬物中毒または医薬品により、幻覚または妄想が生じる障害。

\* 名称に医薬品 (medication:薬物治療)が書き加えられました。

#### ⑧.緊張病(Catatonia)

•DSM-4 では、Catatonia は一般身体疾患による精神疾患、統合失調症の緊張型、気分障害の特定用語に分散されて記述されていましたが、DSM-5 では、ここにまとめて記述されています。

\* 主な症状は、昏迷、カ<sup>ハ°</sup>フ<sup>ハ°</sup>シ、蟄屈症、反響言語・動作などです。

以上